直言

地域に根差しながらも世界とつながり 最高水準の医療と人に寄り添う医療を

2年半後には800床となり世界へ一段と飛躍

医療法人徳洲会 副理事長
湘南鎌倉総合病院（神奈川県）院長
小林 修三（こばやし しゅうぞう）



当院は669床を有するがん診療連携拠点病院として、高度ながん診療を行う急性期病院です。医療が急速に進歩する時代にあって、新しい治療を生み出し、それを必要とする世界の人に届けることもまた、“生命だけは平等だ”の理念の実践です。現在、徳洲会は病院数日本第3位、96の病院を有し約5万人が働く組織です。今こそ世界に羽ばたく時です。徳洲会は国際化を目指し、さらに研究などアカデミアへの活動も積極的です。

BNCTが４月に照射をスタート 末期がん治療に対し大きな成果

当院では今、さまざまな先端医療への挑戦が始まっています。再生医療は人への応用開発に15年かかりましたが、今年の再生医療学会で当院の検証的自由診療という方式が、今後進むべき道として賛同されました。法に基づいて、当院の細胞調整室で生成された高純度のエクソソームを用いた変形性膝関節症への本邦初の特定臨床研究を開始し、NHKをはじめ多くのメディアで紹介されました。腎臓病への応用や薄毛に対する試みも始めています。また、国内初となる遺伝子改変ブタ腎移植の企業治験の実施も発表しました。当院は民間病院でありながら医学研究も盛んであり、14件の科研費、1件のAMED研究費も採択されています。当院の腎移植件数は年間50件に迫り日本7位、神奈川県1位となっています。当院では一般救急総合外科をつくり、彼らを中心に多くの専門外科が協力し、より高度な外科手術を行う体制も整えました。月間1,000件を超える手術、全身麻酔率も70％となっています。来年度、当院では初期研修医から3人の進学を含め計8人の外科専攻医が入ります。がん医療でも陽子線治療やBNCT（ホウ素中性子捕捉療法）、前立腺へのPSMA治療など、従来とは異なる新しい治療に取り組んでいます。

当院はIAEA（国際原子力機関）のアジアハブ病院として認定されています。世界に2台、ヘルシンキと当院にある新型BNCTは、すでにこの4月から人に照射され、末期がん治療にも驚くべき効果を上げています。さらに、米国オハイオ州立大学と連携し、心臓治療、放射線腫瘍、移植などの臨床分野で人材交流、教育、共同研究を進め、世界に向け新しい医療を発信する病院を目指しています。日本の病院が海外から学ぶだけではなく、日本から世界へ医療を発信しましょう。タイのバンコク国際病院では看護師が英語でカルテを記録しています。徳洲会ではDX化も加速しています。インドネシア・ベトナム・カンボジア・タイ・バングラデシュ、そしてタンザニアで病院建築や医療協力も進んでいます。徳洲会の全病院から優秀な若者が世界に飛び出すことを願っています。

国際未病医療センターを開設 タイで音楽療法用いた試みも

神奈川県知事の支援で、当院に国際未病医療センターが開設されました。「未病」の段階から健康寿命を延ばすという考え方です。その取り組みの一つが音楽療法です。すでに多くのエビデンスがある音楽が、心身の健康にどのような効果をもたらすのか、横浜国立大学と共同研究を実施しています。この活動はトヨタ財団からも支援をいただき、バンコクの医療機関で音楽療法を用いた未病改善の取り組みを展開しています。また、県からの委託事業として中井やまゆり園など障害者支援医療にも積極的です。これらは私の院長就任時のマニフェスト「弱者を置き去りにしないで先端医療をやる」の一つで、県との協力で「いのち輝くともいき」活動も実践しています。

当院は地域に根差しながら世界につながり、世界最高水準の医療と人に寄り添う医療を同時に実践する病院にしていきたいと思います。院長就任時、赤字計画で預けられた当院は、全職員の一致協力により、この7月、44億円と過去最高益になりました。「意義があるなら利益にならない対価のない研究についても行おう」という東上震一理事長の発言にもあるように、徳洲会は新たなステージに入りました。利益率上昇につながりにくい当院は、それでも初めて医業利益率10％となりました。この利益は新しい医療機器購入などに使われます。また、これまでの4棟に加え5棟目のE棟建築の設計（ウイメンズパビリオンと回復期病床・自由診療病床）が始まっています。2年半後には800床の病院となり、ますます世界に飛躍するでしょう。

皆で頑張りましょう。

日本体外循環技術医学会

徳洲会のCEから3演題

教育や手技をテーマに発表

第51回日本体外循環技術医学会大会が9月12日から2日間、高知県で開催された。テーマは「一手入魂～その瞬間、その技！」。徳洲会グループは3演題を発表した。

体外循環は、人工心肺装置を用い一時的に血液を体外に導いて酸素化などを施し、再び体内へ戻す方法。今大会で徳洲会グループは3人の臨床工学技士（CE）が1演題ずつ口演（口頭発表）した。

中部徳洲会病院（沖縄県）の赤嶺蒼史CEは「CardiacECMO教育プログラムの構築と当院の取り組み」がテーマ。自院で体外循環技術認定士取得者にプライミング（体外循環開始時の準備工程）とECMO（体外式膜型人工肺）導入手技に絞った教育方法として、動画教材や文書マニュアルを整備、筆記テスト、年2回の院内研修会を実施した。その結果、動画教材は文章のみのマニュアルと比較し、理解が得られやすいものの、動画学習・筆記試験のみでは自信につながりにくい可能性を示唆。模擬回路を用いた実践的トレーニングも併用する重要性を指摘した。

岸和田徳洲会病院（大阪府）の畑勝也・臨床工学室副主任は「V-A ECMO中の持続的空気混入が示す潜在的リスク」と題し、V-A ECMO導入後に回路内へ空気混入を認めた症例を報告。迅速な判断でECMOを離脱し、後日、独歩退院となった経過とともに、空気混入の原因特定には至らず、考え得る可能性を示した。同様のケースを認めた際には、原因検索や迅速な判断、回路監視体制の徹底などが求められると強調した。



自院の取り組みや経験を発表する（左の写真から）赤嶺CE、畑副主任、岩本技士長

同院の岩本和也・臨床工学技士長は「TAVI explant症例における体外循環戦略」と題し、自院の経験からTAVI explant（経カテーテル大動脈弁留置術＝TAVIで留置した人工弁の外科的抜去術）を安全に遂行するための体外循環戦略を紹介。対象症例での方法を説明し、①術中の不測事態を想定した事前準備、②確実な心筋保護ルートの構築などをポイントに掲げた。

コーヒー画材に安らぎ

中部徳洲会病院が初アート展

中部徳洲会病院（沖縄県）は8月24日から約2カ月間、院内でコーヒーアート展を開いた。コーヒーアートは、コーヒーを使い、その濃淡で描く絵画。会場には木やウサギ、キツネなど「生命力」を感じさせる作品が27点並んだ。制作を手がけたのは、北谷町の子ども美術教室「こどもARTLABたね」の生徒や卒業生、同教室で絵画を教える山城芽さん。山城さんには展示のコーディネートに関する協力も得た。



作品を手がけた山城さん（後列左から2人目）や子どもらと記念撮影をする稲福係長（その右）



コーヒーで描かれた山城さんの作品「ここにいるよ」

発案者は同教室で絵画を学んでいる同院の早川真人・心臓血管外科部長のお子さん。山城さんに「注射など怖いイメージのある病院を、ほっとできる場所にしたい」と話したのがきっかけだ。同院も趣旨に賛同し、展示ブースを新設。

準備を中心的に進めた稲福信也・地域医療連携室広報企画渉外係長は「患者さんからは『コーヒーの香りがしてほっとする』、『コーヒーで描かれたとは思えない』など多くの感想が寄せられました。今後も続けていきたいです」と笑顔。会場では、退院した患者さんから贈られた作品を展示する「木工芸展」も同時に開いた。

病気のはなし 239

ひと晩待つと手遅れになるかも

腸閉塞

腸閉塞は何らかの理由で腸が詰まり、腸管が物理的に塞がる状態を指す。「腸の蠕動運動がなくなるイレウスとよく混同されますが、異なるものです」と札幌もいわ徳洲会病院の前島拓副院長（外科・消化器外科）。

腸閉塞には血流障害をともなわない単純性腸閉塞と、血流障害をともなう絞扼性腸閉塞があり、最も一般的なのは、腹部術後に生じた癒着で内容物の通過が妨げられる単純性腸閉塞だ。多くの場合、食事を止める絶飲食や点滴に加え、腸内にたまった内容物やガスなどを排出し、圧力を下げる減圧処置を行い、保存的治療で症状の改善を図る。

手術で癒着部位を剝離する治療法もあるが、「剝離手術の傷が原因で腸閉塞をまた起こすこともあるため、同じ箇所で何度も繰り返すなどの事情がなければ、まずは保存的治療を試みます」と前島副院長。

一方、緊急性が高いのが絞扼性腸閉塞だ。前島副院長は「血流障害により、腸が腐ってしまい、最悪の場合は命の危険をともなうため緊急手術が必要です」と、その危険性を訴える。症状は持続する強い腹痛、腹部膨満感、吐き気で、症状だけでは単純性腸閉塞と絞扼性腸閉塞、腸炎の見分けがつきにくい。「絞扼性の場合、ひと晩待っていたら手遅れになることもあります。症状が出たら、すぐに病院を受診してください」と前島副院長は呼びかけている。

